

久万材の家づくり推進協議会 御中

平成 24 年 5 月 8 日
伊藤建築設計室二級建築士事務所
伊藤正孝

久万高原の家モデルハウスの意義と活用について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたびは、久万高原の家モデルハウスがオープンしましたこと、まことに喜ばしいことと、心よりお祝いを申し上げます。

久万高原の家モデルハウスは、日本全国でみても先進的な取り組みであると感じているところです。

久万高原町は、全国に先駆けて育林技術体系を作成し優良木材生産に取り組むなど、林業ではすでに全国的にも先導的な林業地として知られています。それに加えて、久万高原の家モデルハウスがオープンしたことで、木材が最も消費される住宅業界においても、先導的な立場になることが考えられます。

久万高原の家モデルハウスが全国的にも先進的な取り組みであることは、次の 3 項目に要約できます。

- 1.一企業が自社利益の為に設けたモデルハウスではなく、林業家と大工、工務店などの建築関係者が協力し合って、地域の将来を考えてつくりあげたモデルハウスということ。
- 2.木造建築の構造における先端的な理論が取り入れられていること。
- 3.少子高齢化が全国的に問題になる中で、住宅と地域のこれからの在り方を示す取り組みであること。

少し補足しますと、

1 は、木造住宅は木材でつくる住宅であるにもかかわらず、現在の住宅市場ではコスト削減と効率化が優先され、木材が室内に見えない大壁のデザイン、地域材を積極的に使用せず安価な外国産材を使用する木材使用の意義を考えないといった状況にあります。地元林業の収益が上がらず厳しい経営状況にあるにもかかわらず、目を向けようとしていない状況があります。そのような中で、地元のスギを積極的に使用し、地元の職人によって造り上げる久万高原の家は、林業と住宅建築が繋がった地域循環型の取組みといえることは明らかです。

2 は、木造住宅の構造設計法である壁量計算に用いる耐力壁として、ラティスパネルの大匠認定取得の取り組みを始め、構造材で問われる含水率の管理に取り組み、建築中には常

時微動計測を行い木造建物の固有周期について検証を行うなど、木造建築の構造理論の先端的な知識が活用されています。

3は、高度経済成長期の景気策に用いられてきた住宅市場など、スクラップ&ビルドの価値観のまま現在も転換しきれずにいる日本社会では、少子高齢化、過疎化といった縮小していく社会への対応が求められています。30年後の家族・世帯の姿、世帯を取り巻く地域の姿を考える中で、久万高原の家は対応自由度の高い間取りと、”豊かさとは何か”という価値観において従来の物や設備に依存しない新たな空間の一例を示しています。過去の住宅に対する固定概念・価値観から脱却した新たなデザインと、木造住宅の可能性について、久万高原町という地域から先進的なメッセージを発信することに意義があると感じます。木材生産と使用を通じて、地域社会の繋がりを創り出す役割も担っています。

以上のような先進的な取り組みは、日本全国で見てもあまり例が無い意義のある取組みだと感じております。

最後に、これから久万高原の家モデルハウスが地域活性化に大きく寄与することを願い、恐縮ではございますが活用案を考えましたので、ご高覧いただければ幸いです。

敬具

記

「久万高原の家モデルハウス活用案」

1.モデルハウス内展示

(1) 耐力壁”ラティスパネル” 取り組み状況の展示

製作状況、予備試験状況

(2) モデルハウス施工状況の展示

(3) モデルハウス関係者（施工者）の紹介

(4) 久万高原の家プロトタイプづくりの久万材の家づくり推進協議会の活動記録の公開

(4) 常時微動計測等木造建築構造理論の解説

(5) 久万林業の取り組みの展示

2.モデルハウスでの活動

(1) 木だわり塾の開催

(2) 木造設計者の育成勉強会

(3) 住宅建築相談

以上